エステサロンの現場から

営業再開サロンに聞く エステのコロナ対策メニュー

営業を再開したエステティックサロン。エステティシャンたちは、できる限りの衛生対策を講じ、お客様を迎えているところだろう。新しい生活様式が始まるなか、自粛明けのお客様のニーズはいかにあるのか、エステティシャンたちの声を聞いた。

クラシィーフ

www.kurasseefu.com

オーナーエステティシャン
市川 広美さん

休業前には感じなかった自粛生活による疲れがあらわに

岐阜大学近くのマンション内にサロンを構える『クラシィーフ』。オーナーエステティシャンの市川広美さんは、優良エステティックセラピーネットのインストラクターの資格を持つエステティシャン。

「4月に入り営業の方からキャンセルが出始めたことをきっかけに、休業を決めました。5月7日からは、ボディメニューのみで、16日からは全メニューで営業を再開。希望制ですが、お客様にもマスクを着用していただきながらトリートメントを行っています。

営業を再開してみると、お客様の体は自粛疲れが顕著だったという。

「コロナ情報が気になってスマートフォンを見る回数が増えた、外出自粛中はゲームに夢中だったなどで、眼精疲労や肩こりにお悩みの方が4割ほどです。ジムの閉鎖・運動系サークルの休会・テレワークなどで運動不足になり、浮腫みが出た体のメリハリが消えたという方も。感染への恐怖、日用品不足・収入減への不安、休校で自宅待機のお子さんへのイライラなど、メンタルからくる疲れも体に表れていましたね。

今までにない生活で明らかになったお客様の変化。市川さんは新たなメニューで取り組みにも挑戦した。

「免疫力アップとストレスによる体の中心部の凝りやメンタルケアのため、腸活メニューを取り入れました。EMS（美容機器）を新しく導入して、お腹の深部までをメンテナンスし、喜ばれています。全ての施術前に優zenの手技である"ゆらぎ"で心身の緊張をゆるめたり、運動不足によって足首のねじれが悪化した方も多いので、骨盤・腰周りもしっかりほぐしています。

新たに気付いた衛生管理

オープン当時から玄関先での手指消毒を徹底し、なるべく使い捨ての道具を使っていた同サロン。今では、お客様が触るすべての箇所をこまめに消毒している。

「指が触れた化粧品ポンプの上部や照明・エアコンのリモコンなど、細かな部分まで消毒しています。換気も以前より長時間行うようにしました。お客様の顔に直接触れるメニューではフェイスシールドとマスクを着用して対応。トイレの扉を開けてから次まるなど狭い部屋をしたり、更衣室で使用されたタオルをお客様に入れていただく専用の箱も設置しました。

さらに今後検討しているのが、トイレのスリッパだ。履き替える必要がないよう、お客様が置いているペーパースリッパのまま履ける、大きめのタイプを導入する予定だ。

休業中はSNSにホームケア動画をアップ。お客様をサポートした。

営業再開を"待ってました！"と来店される常連のお客様に載れたという市川さん。思わぬ嬉しい変化もあったという。

「今まで1日1回のフェイシャルのみご利用のお客様が、今回のことをきっかけにボディメニューを初体験され、"こんなに気持ちいいものだったのね！"と、フェイシャルと交互に月2回のご来店になられました。今は、技術や知識を磨いいチャンスだと思います。これからは衛生管理がひとつの売りになると思うので、余分な仕事と思わず習慣化していきたいですね。」

「同じりなど、体の力が抜けていない方から、らっしゃいました。改善するため、ラジオ波を使った温冷ケアを取り入れ、深部からリラックスできるよう施しました。

また、コロナ対策について伺うと、「当面の間、1日1名様限定で受け付けています。ほかにも、空気清浄機を新たに設置しました。体重中にカーテンからソファーカバーまで一式洗濯しているので、訪れた方には"すごく気持ちがいい"とおっしゃっていただけました。今後は緊急が不安な方向けに、短い時間でできるコースも考えています。」

Beauty & Relaxation Monaju

http://home.c00.jtscom.net/monajue

リネン類すべてに気を配る

東京の目黒川近くに「癒やされながらキレイを目指す」サロン「Beauty & Relaxation Monaju」を開設する大川淳子さん。お客様第一主義で多くのリピーターを抱えるエステティシャン。

「サロンは4月8日から6月22日までクローズしましたが、その間、化粧品の販売は継続していました。お届け方法は、発送の方もいれば、サロンが入居する建物入口で受け取りを希望する方も、そういった方からは、お悩みなど直接お声を聞くことができました。

再開後、お客様の体に少し変化があったという。

Floral Essence

www.floral-essence.com

オーナーエステティシャン
工藤 真由美さん

理由は違えど疲れている人が増加 エステティックの需要を実感

一人ひとりに寄り添うエステティックを心がける『Floral Essence』。オーナーエステティシャンの工藤真由美さんは、コロナ禍の4月8日～5月6日を休業。再開後にはこんな声が届いたという。

「お客様から、"やっぱりケアしてもらうと違う"、"美容は一番自粛したくないこと"という言葉をいただきました。実際に、マスクによる肌荒れ、ニキビ、くすみ、ざらつき感といったお悩みが多くありました。また忙しくなった方は感染リスクの不安と疲労の蓄積、自粛により仕事が減っている方は経済的な不安や動けないストレスなど。理由はそれぞれ違いますが疲れている方が多い印象です」。

こうしたコロナ疲れに対し、メニューの工夫も行っている。

「トリートメントはゆったりめに行い、アロマエッセンスを使用するようになりました。日頃からアロマは取り入れていますが、久しぶりのお客様は使った瞬間に"いい香り"とおっしゃってくださり香りによる癒やしを改めて実感しました」。

新型コロナウイルスの影響で変わりつつある私たちの日常。そのなかで工藤さんはエステティックの重要性を考えたという。

「自分を大切にする時間を持ちたい方や、癒やしを求める方、大切な人とのつながりを保つために健康でいたい方など、自身の体への意識が高まっていると感じます。だからこそ、本物のエステティシャンが必要とされている。技術、知識、人を癒やす力、全て備えるエステティシャンになれるよう、これからも日々努力していきます」。

テスターの使用を控え、使い捨てアイテムを充実

以前は、洗面台やトイレにお客様用の肌触りの良いタオルを置いていたが、使い捨て可能なペーパータオルやスリッパに変更。また自由に使えるテスターの提供も控えている。

「万一、業界でクラスターが発生した場合、エステティックそのものが不信感を持たれないかと不安になることもあります。しかし、コロナ騒動の初期に、東京の自衛隊中央病院が真っ先に多くの感染患者を受け入れ、しかも院内感染を起こさなかったという事例がありました。そのことから、正しい知識と対策を知っていれば、無駄に恐れる必要はないのだと実感しました。今後のコロナ共存社会でもお客様に安心いただけるエステティックを学び、実践していきます」。

withコロナ時代のエステメニュー

Esthetic MORIMASA
学院長
森柾 秀美さん

トリートメントの組み立てでプラスαを

プロのエステティシャンを対象としたスクール「Esthetic MORIMASA」学院長の森柾秀美さん。自粛期間が続く5月18日（月）、「コロナ対策ストレスケア講座」と題し、Instagramの「タキガワエステティックビューイング」（@takigawa_esthe_viewing）でライブ講義を開催した。好評だったライブ内容から、withコロナのサロンワークのヒントをまとめた。

森柾さんはサロンの衛生について「ディスポタイプでの対応」を提案。シーツや枕専用シート、スリッパやショーツなど、サロンツールを使い捨てにすることを、すぐにできる衛生対策としながら、くわえてプラスαが重要だと話す。

「衛生面からもディスポタイプがおすすめですが、上質な質感が半減してしまうため、これを補うプラスαを目指してください。既存メニューの組み立てを少し変えることで、コロナ疲れのお客様にフィットし、"あそこに行くと元気になれる"そんなパワースポット的サロンが強みになりますね」と森柾さん。これにくわえ、今のお客様には「時間コスパ」が響くという。「ゆっくりできる時間を取られない」が付加価値になるのだと。

「"ゆっくり""時短"という矛盾を解決するには、脳波に合わせたメニューが有効的です。プレトリートメントで副交感神経モードに移行しアルファ波でリラクゼーションを、メイントリートメント後にアルファ波の時間を設け深い睡眠後、覚醒へと誘導します。例えば、フェイシャルのお客様でもフットマッサージからメインに入ったり、パストメイクが目的でも背中から姿勢を整えるのもいいでしょう。私たち美容の仕事は、そのうえにあったメニューをその場で組み立てられます。今であれば、リラックスしながら自然治癒力を上げていくことが喜ばれるかもしれませんメインにプラスして、時代にあったトリートメントを想像してみてください。」